

平成26年度

第2回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー（1日目）

～認知症の本人と家族を地域で支える体制を築いていくために～

2014年10月2日

認知症介護研究・研修東京センター

（進行：研究部 永田 久美子）



ようこそ！ 全国合同セミナーへ



吉祥寺・井之頭公園 秋

認知症になっても
住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができるように。
北海道から沖縄まで、すべての市区町村で
わが地域ならではの、一步一步を。



平成26年度第2回合同セミナー参加者概要

区分	参加自治体数	参加人数
都道府県関係者 (認知症疾患資料センター含む)	8	16人
市区町村関係者 (地域包括支援センター、 推進的立場の事業者等含む)	106 * 34都道府県	159人
合計	-	175人

認知症地域支援体制推進 全国合同セミナーの目的

全国の自治体が、オレンジプランに基づきながら各自治体としての認知症施策を円滑に企画・運営し、地元で暮らす認知症の人が初期から最期まで安心してよりよく暮らしていくことを支える地域資源連携・支援体制づくりを着実に進めていくことを促進する。

(厚生労働省老発0709第8号)

この合同セミナーで

これからの
国施策の
方向性、
最新情報を
知る。

全国各地の
取組み事例を
参考にしながら
行政の役割・
ポイントを
(再)確認する。

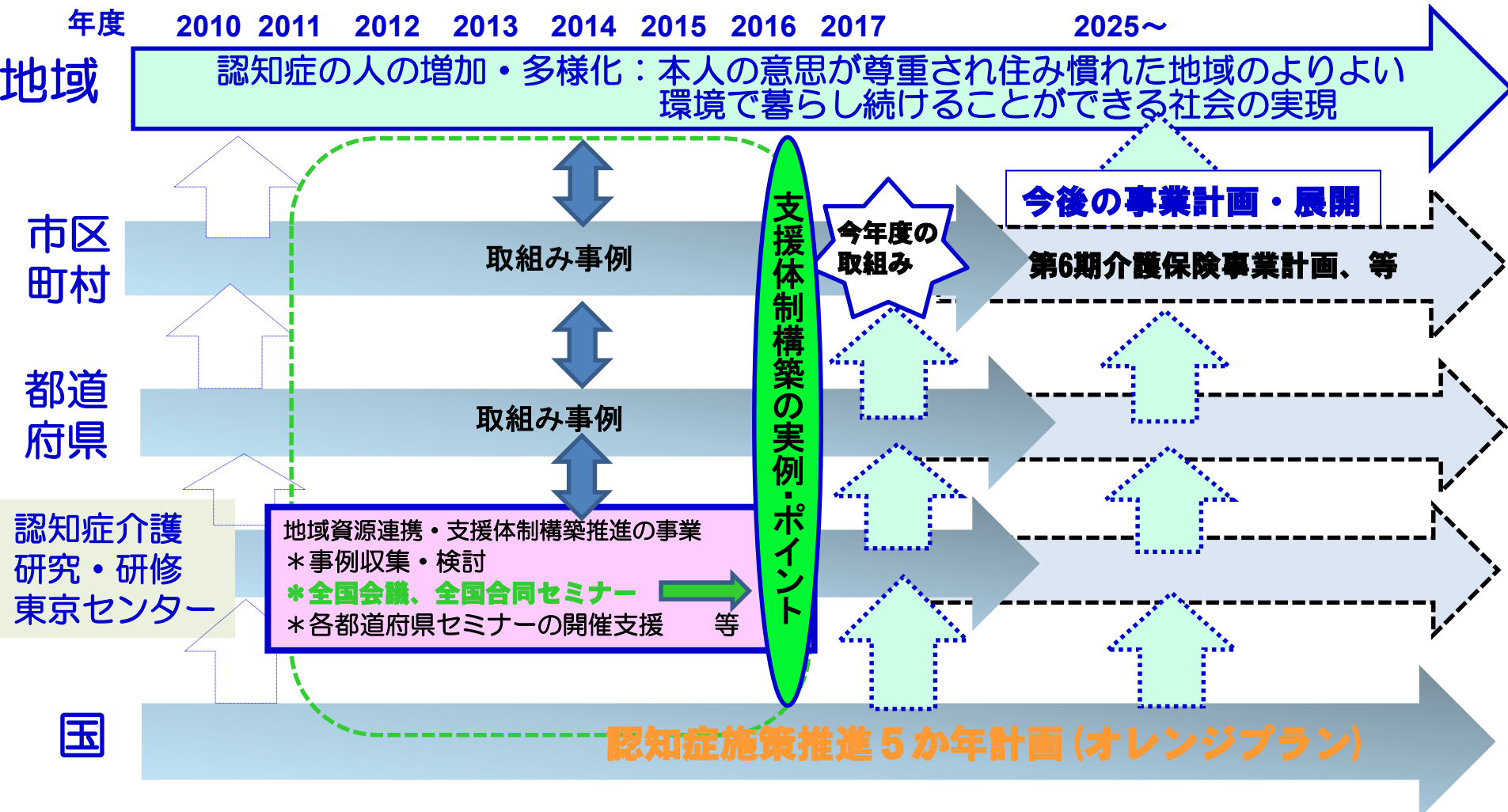
全国各地の担当者等
との情報・意見交換
を通じて、自地域
の今後のあり方・
補強策等を具体的に
検討する

自地域で

- * 情報共有
- * 対話・討議
見直し
具体策補強
- * 取組みの
推進へ

ネットワーキング

全国合同セミナーの位置づけ：2014年10月



一人ひとりが意思を尊重され地域で暮らし続けることができるわが町に
⇒ 合同セミナーでの全国各地の情報・討議、他地域とのつながりを地元を持ち帰り
都道府県・市区町村・地域包括支援センター等が
一体となって重層的に、施策・取組みを推進していこう。*「今の時期」を活かそう！

1. 認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）の 進捗状況と今後の展開

厚生労働省 老健局 高齢者支援課
認知症・虐待防止対策推進室

× 毛

2. 自治体における認知症支援体制づくり最前線(その1)

1)自治体の課題解消にむけた最前線のトピックス

2)自治体の取組み事例報告

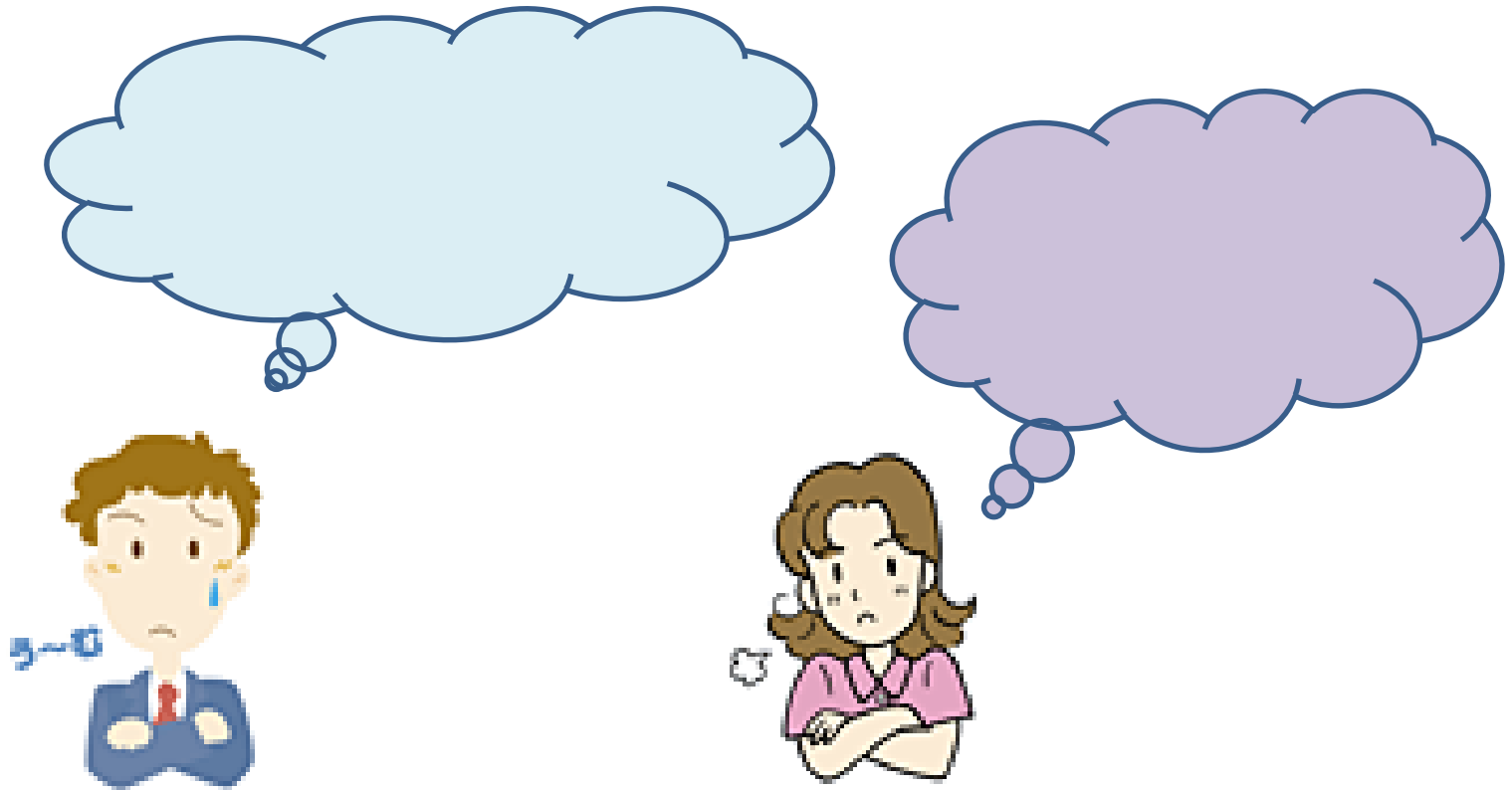
○都道府県の立場から:兵庫県

○市町村の立場から:鹿児島県さつま町

1)自治体の課題解消にむけた最前線のトピックス



今、認知症施策・事業の担当者としての課題は・・・



わが自治体の課題は・・・

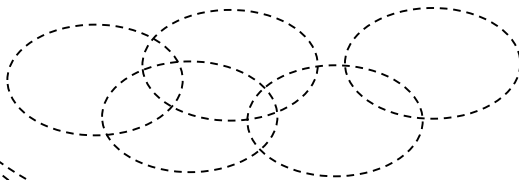
各自治体：地域特性

認知症施策・事業上の課題

高齢者施策・
事業上の課題

地域福祉・
医療施策・
事業の課題

自治体施策
全体の課題



課題は、連動している！

- ・認知症施策・事業の課題が、
高齢者全体、地域福祉医療全体、自治体全体の
課題にも影響を及ぼしている。
- ・高齢者全体、地域福祉医療全体、自治体全体の課題が、
認知症施策・事業の課題にも影響を及ぼしている。



今、全国各地で

課題解消にむけた最前線のトピックス

1. 脱領域での発想・アクション

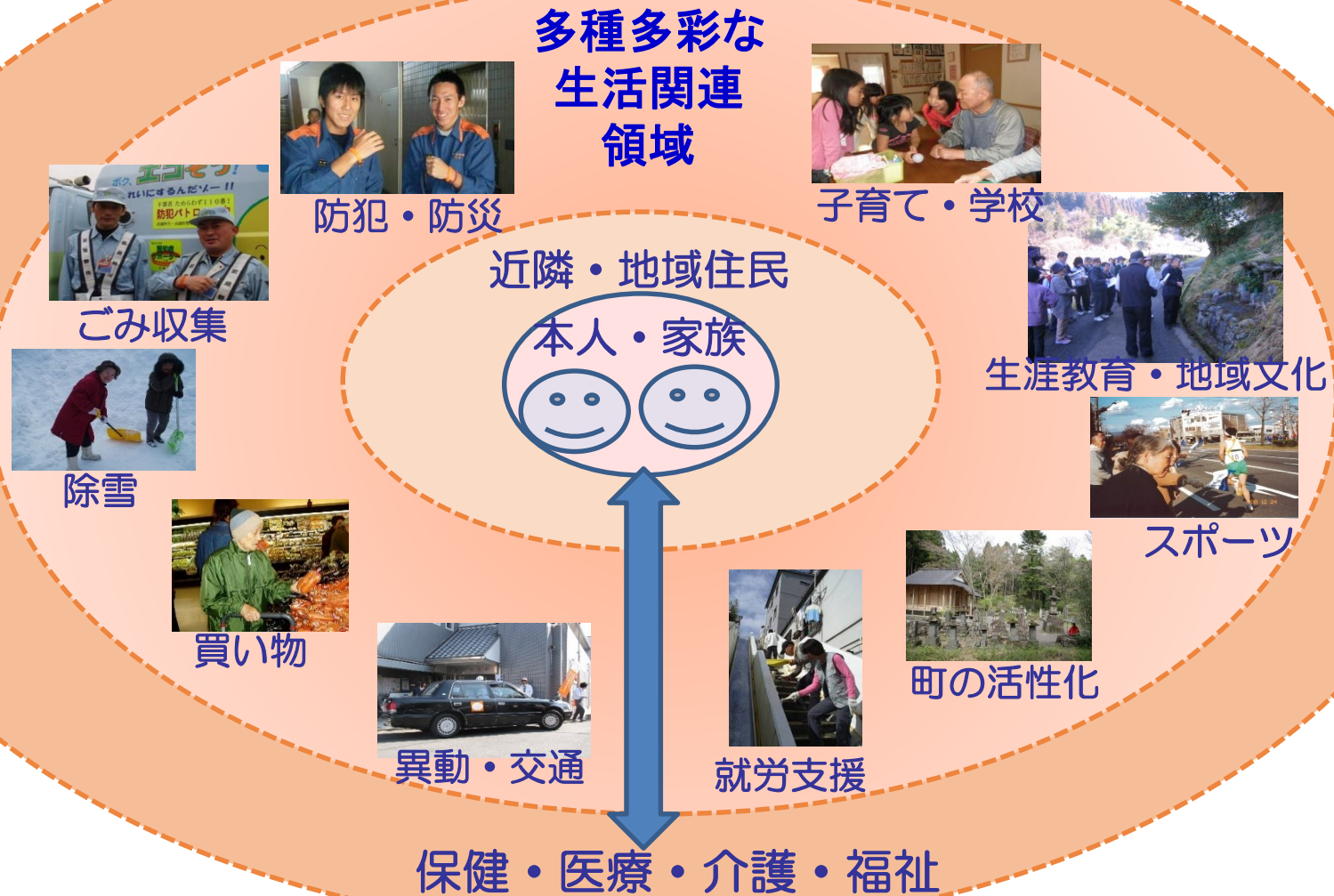
認知症施策・事業の課題を解消していくためには、「認知症」という視野の範囲で考えたり、動いていても課題は一向に解決しない。

「地域/自治体」に視野を広げて、
立場や職種を越えたつながりをつくり、
一緒に考え、動きだす。



この企画・運営を最も効果的にできるのは、行政

地域の多様な領域・資源に視野を広げた
連携・支援体制作りが展開 ＊地域特性



課題解消にむけた最前線のトピックス

2. 共通のビジョン・方針、目標を(もう一度)固める

連携・支援体制作りといっても

立場や職種によって、何をめざすか、どのような方針で進めていくかがバラバラのままだと、どんな事業・取り組みをやってもやっても実質的な成果が生まれない。

▲たくさんの難航、失敗が積みあげられてきている。

立場や職種を越えた共通のビジョン・方針・目標等を自治体としてこの時期にしっかりと固める動きが活発。

*行政＋専門職＋住民で話し合いを重ねながら
共通合意をはかって

* 当事者の声をよく聴きながら、当事者を交えて

* 自治体・地域の実態把握に基づいて

地域に根ざした、ビジョン・方針・目標をつくる

★すべての施策・事業・活動の指針としていく：一貫した仕組み・実働へ

地域包括ケアシステムの構築に向けて自治体に求められる機能

※出典:「地域包括ケアシステムを構築するための制度論等に関する調査研究事業報告書」(H26年3月:地域包括ケア研究会)

1. 実態把握、課題分析

人口や世帯等の現状・将来推計、地域住民のニーズ、支援サービスの提供状況を把握・分析を行う



2. 基本方針の明示と関係者との共有 (規範的統合)

基本方針を定め、地域住民・社会福祉法人・医療機関、介護サービス事業者・NPO等のあらゆる関係に働きかけて、基本方針を共有する



3. 施策立案・実行、評価

施策・事業を実行し、その成果・課題を評価する

地域における共通認識の醸成—「規範的統合」—

- 「尊厳の保持」「自立生活の支援」のための仕組みを、「住み慣れた地域」で実現する上で、自治体は中心的な役割を果たす。
- どのように地域包括ケアシステムを構築するかは、地域住民の参画のもと決定すべきであり、自治体にはその選択肢を地域住民に提示する責任がある。
- 実際の構築に向けては、自治体には、地域住民に加え、支援・サービスに携わる事業者や団体等にも働きかけ、目標像を共有していく「規範的統合」が求められる。
- 「規範的統合」は、自治体の首長による強いメッセージの発信が重要。また、自治体・保険者には、まちづくりや医療・介護サービスの基盤整備に関して、明確な目的と方針を各種の計画の中で示すことが求められる。

課題解消にむけた最前線のトピックス

3. ビジョンをきれいごとにししないで、地域の中での切実な課題にしっかりと向き合う

連携・支援体制のしくみづくりが進められているもののしくみがなかったり、しくみから零れ落ちている人たち。今の時期に、地域の人に関心の高い切実な課題に焦点をあてて、まちぐるみでの取組みに展開。

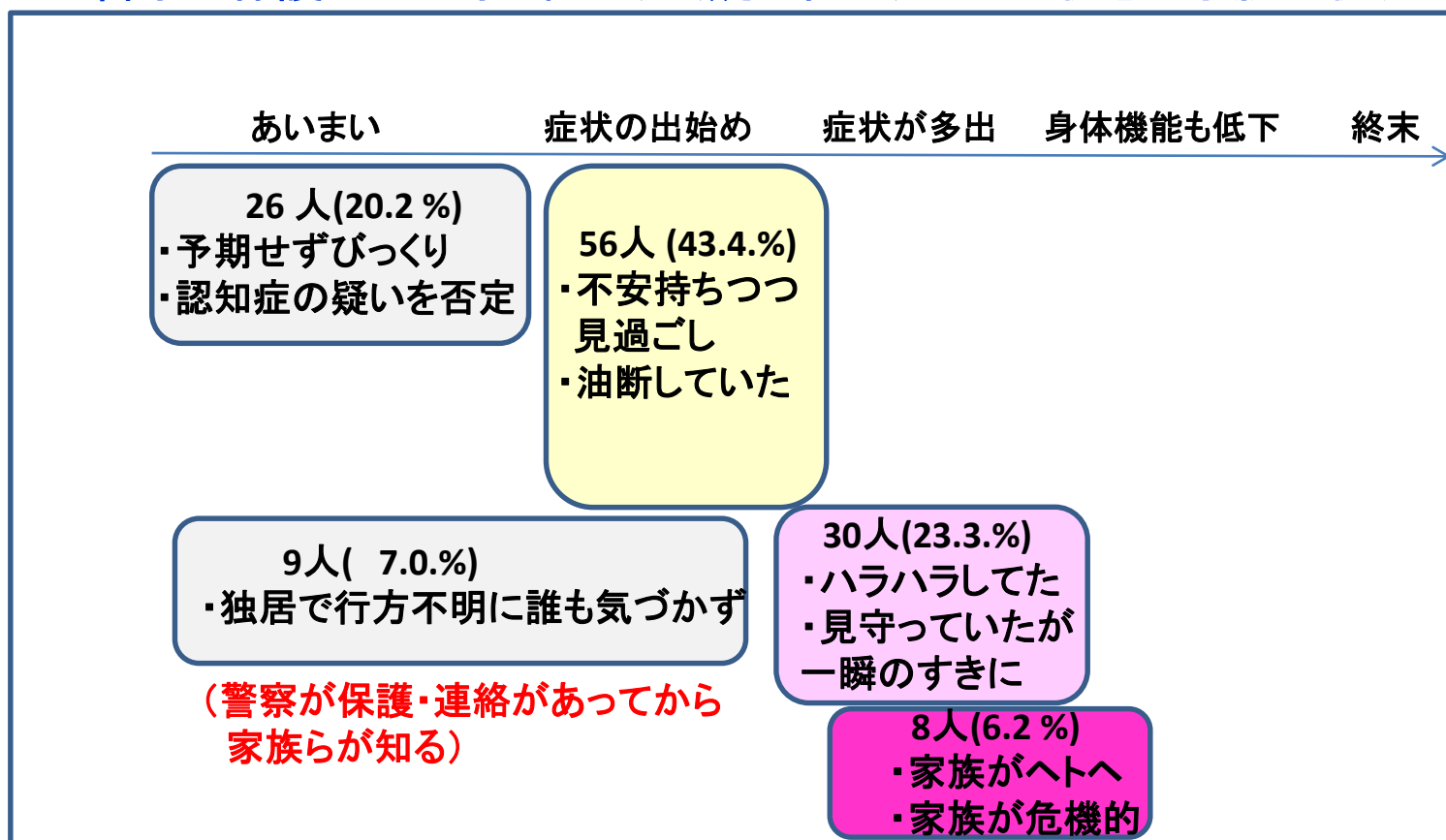
- ・行方不明の課題
- ・消費者被害の課題
- ・災害対策の課題

★切実な問題は、積み残しの認知症関連の問題の縮図
⇒そこに集中してとりくむことで、
関連した課題解消の、大きな突破口になっている。

行方不明は、認知症のごく初期から重度まですべてのステージで発生している。

- * 医療や介護サービスにつながる前段階のまだ症状が目立たず、普通に生活し、外出したまま行方不明になった人が約7割を占める。
⇒「行方不明対策＝徘徊している人への対応」という発想では、問題が解消しない。

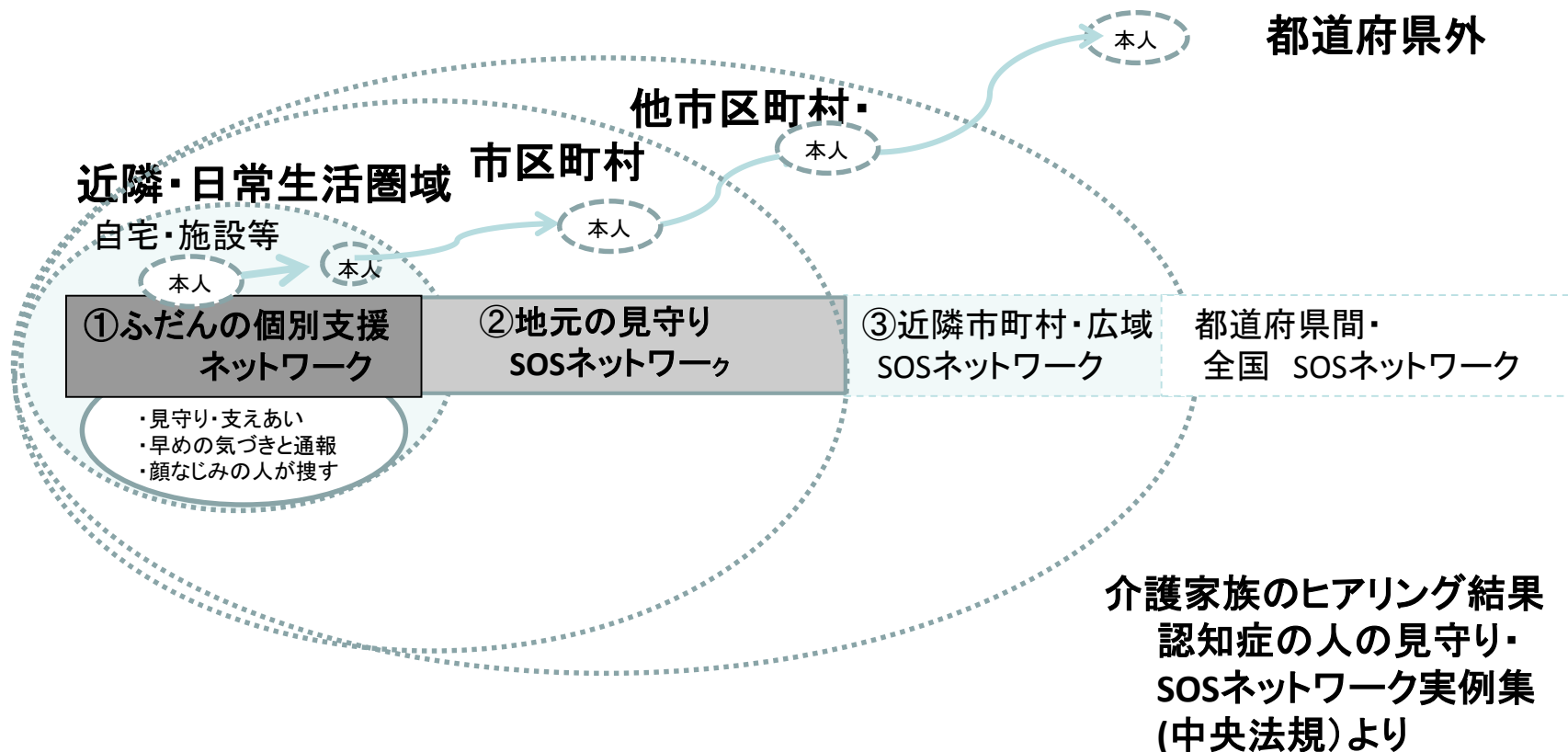
警察に保護された時の認知症（疑い含む）の人の状態と家族の状況



本人・家族が求めていることは・・・

*** 外に出かけたい、行きたいところに行け、家に戻ってきたい（本人）**

*** 見知らぬ遠くまで行って行方不明になってしまう前に、
身近な地域で見守ってほしい！ 早く一緒に探してほしい！**



2)自治体の取組み事例報告

○都道府県の立場から

市町村が取組みの課題を乗り越えていくための県としての
構想と市町村バックアップ・環境整備の実際

兵庫県健康福祉部高齢社会局 高齢対策課
地域包括ケア推進班 亀山 美矢子 さん

○市町村の立場から

中長期の視点にたって認知症の人と家族が暮らしやすい
まちを築いていくための構想と展開

「さつま町の取組み」

鹿児島県さつま町介護保険課 中村 慎一さん

*** ワークシートをご活用ください。**

⇒情報を氾濫させずに

自地域や自分の立場で活かせる点

(行政担当者の役割、取組みのポイント等)のメモを



⇒本日後半、明日の討議を

充実させていくための素材として

⇒地元を持ち帰って

情報共有や自地域の施策・取組みへ

反映していくための貴重な素材として

3. 自地域の取組みの確認と情報交換 ～わが町の取組みの今とこれから～

1) 自地域の取組みの現状と課題の確認

ワークシートで整理してみよう

*まずは、各自が考えてみよう。

1. 兵庫県、さつま町の報告を聴いて、
行政担当者の役割や取組みに関して
自地域との違いを感じた点、自地域に取り入れてみたい点は・・・
2. 自地域で取組んでいる施策・事業や活動を進めていく上で、
行政として解決が必要なことは・・・1点でもいいので具体的に
3. 自地域のこれからの展開にむけて
 - ① 自地域での行政の役割・ポイントは・・・
 - ② 事業や地域のつながり作りに活かしたい自地域の特徴は
問題点のみを見ずに、特徴・強みを活かそう。
* 弱みを強みに・・・
 - ③ 自分の立場で、できること・やりたいことは・・・



*この機会に、視野を広げて、伸び伸びと発想してみよう！



*机上の作業としてではなく、

わがまちにあるものをフルに活かしながら

これからこうあってほしい本人の姿、まちの姿を思い描きながら



2) 他地域の参加者と話しあおう（グループワーク）

○まずは、各自が自己紹介を
お名前、地域、立場、**わが町自慢**（一言でも）

（1）情報交換

ワークシートに書いたことにそって、
各自が順番に伝えあおう。

（3）討 議

以下の点に焦点をあてて話しあおう

* 自分の立場でできること・やりたいことは何か
できるだけ具体的に情報・アイディア意見を
交わそう。

☆話しあったことが消えてしまわないように、グループメモにメモを残そう。

⇒明日の検討の大事な情報原

⇒地元に戻ってからの伝達・共有・推進のための情報原

★今の時期：2014年10月

今年度、そして来年度以降の
大事なターニングポイント。

- ・わがまちがどういった方向に進むのか
- ・そこで人がどう暮らしていけるのか

★大事な時期だからこそ、焦らずに。

国や各地の情報も参考にしつつ、

わがまちのこれからについての
共通の考え方（ビジョン、方針、目標等）に
ついて、多様な関係者と十分に話し合い、吟味し、
合意形成を丁寧にはかっている。

今日は、そのきっかけ。

今回のワークを地元を持ち帰って話しあう機会を
作り、これからにむけて施策や取組みの補強を。

1日目終了！

ほんとうに、おつかれさまでした。

このあと、この場所で、

情報交換会です。

どうぞ、気軽にご参加ください。

この機会に、つながり、活きた情報収集を！

平成26年度
**第2回 認知症地域支援体制推進
全国合同セミナー（2日目）**

～認知症の本人と家族を地域で支える体制を築いていくために～

2014年 10月3日
認知症介護研究・研修東京センター



ようこそ！ 合同セミナー2日目へ。

昨日の4時間の体験は、いかがだったでしょうか？

今日は、同じ地域/比較的近い地域の人たちと一緒に、
情報交換や自地域ですべきこと・できることの話しあいを
深めていきます。

情報を氾濫させたままにせずに、「急がば回れ！」。

「わが地域の地域支援体制」をどう育てていくか、
視野を広げながらに、じっくりと話しあいましょう。

⇒ 帰ってからできること・やってみたいこと、
その進め方を明確にしよう。

⇒ひとつでもいい。

地元に戻ってから、アクションを。



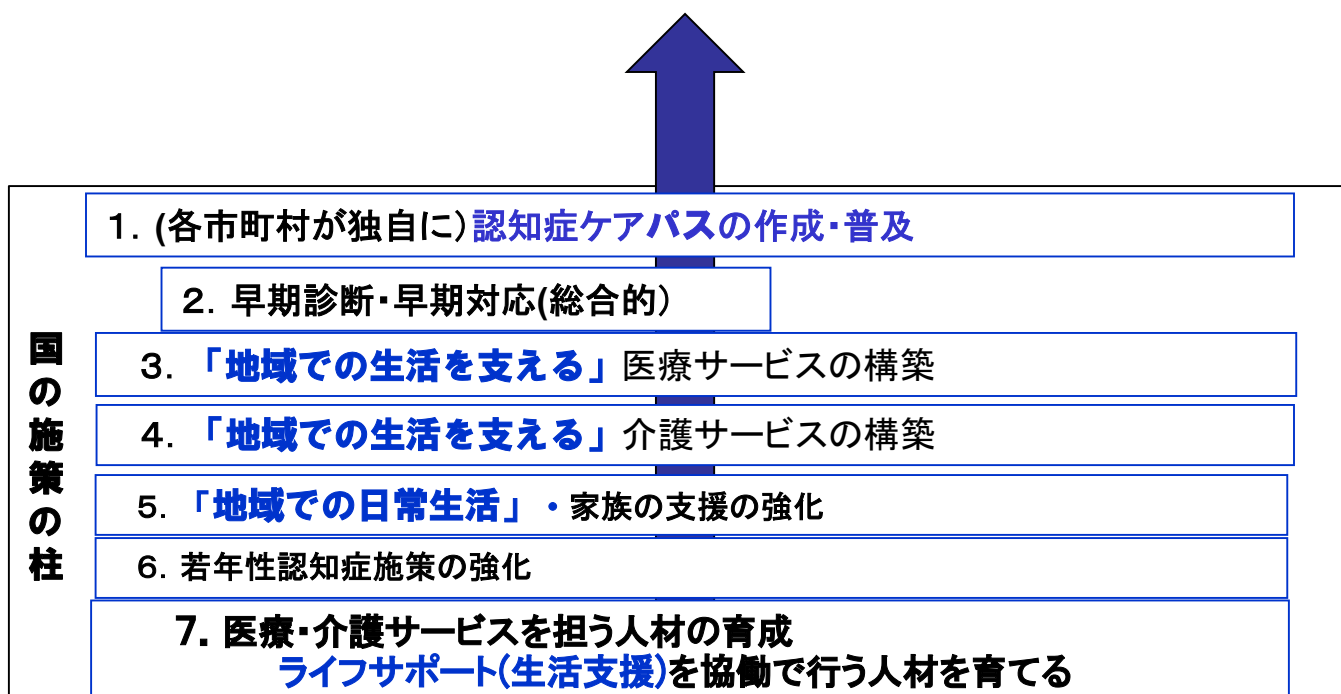
4. 自地域の取組みの課題と今後の焦点の 整理 ～他地域情報を活かして

国の認知症施策の柱

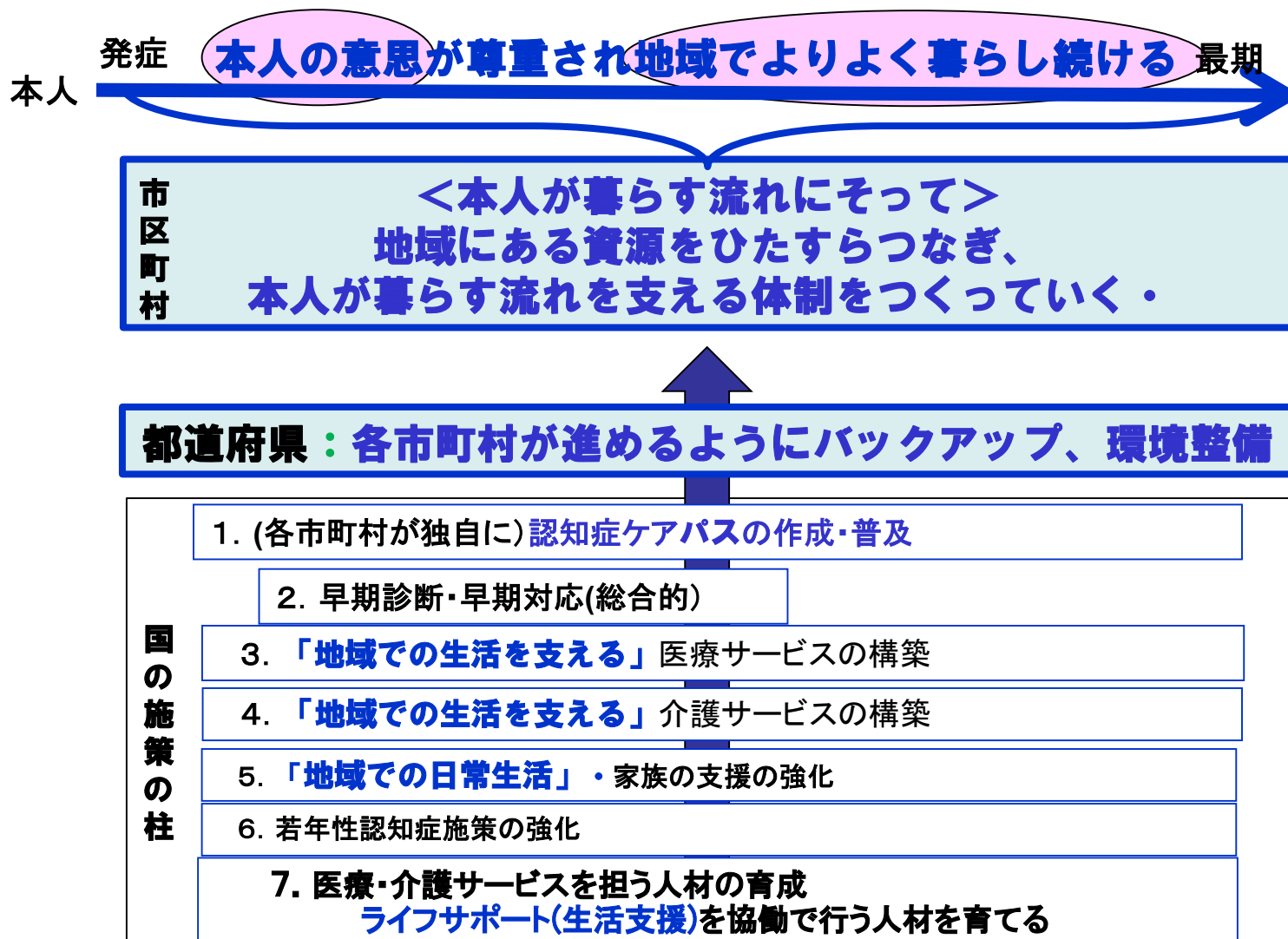
国の 施策の 柱	1. (各市町村が独自に) 認知症ケアパスの作成・普及
	2. 早期診断・早期対応(総合的)
	3. 「地域での生活を支える」医療サービスの構築
	4. 「地域での生活を支える」介護サービスの構築
	5. 「地域での日常生活」・家族の支援の強化
	6. 若年性認知症施策の強化
	7. 医療・介護サービスを担う人材の育成 ライフサポート(生活支援)を協働で行う人材を育てる

認知症施策の方向性

本人 発症 本人の意思が尊重され地域でよりよく暮らし続ける 最期



新しい発想・視点・方向性で考えよう・考え方を広げよう



新しい発想・視点・方向性に転換しないまま取組んでも たくさんの努力・苦労をしても実を結ばない

旧い発想・視点・方向性

支援の発想・支援者の視点
問題重視

一部の関係者が支援してあげる

新しい発想・視点・方向性

生活の発想・当事者の視点
可能性重視

地域の中で多様な人が
ともに支えあう

当事者にとっての成果がでない
⇒無力感、取組んで楽しくない
⇒理解者・協働者が広がらない
⇒一部に負担がかかり疲弊
⇒地域支援体制がいつまでも
育たない

当事者にとっての成果がでる
⇒達成感、取組んでいて楽しい
⇒理解者・協働者が広がる
⇒負担を分かち合い、楽になる
⇒実質的な地域支援体制が
一步一步育つ

＊行政担当者・関係者が、発想・視点・方向性を変えないと
住民・介護家族、専門職等が変わらない、**変われない。**
＊あなたが、(揺らがない)チェンジメーカーに！



**認知症になっても、本人の底力はすごい。
当事者が暮らす地域の底力はすごい。**

地域の特性・力を最大限生かしながら

わがまちの地域特性

本人 発症 本人の意思が尊重され地域でよりよく暮らし続ける 最期

市
区
町
村

＜本人が暮らす流れにそって＞
地域にある資源をひたすらつなぎ、
本人が暮らす流れを支える体制をつくっていく・

都道府県：各市町村が進めるようにバックアップ、環境整備

国
の
施
策
の
柱

1. (各市町村が独自に) 認知症ケアパスの作成・普及

2. 早期診断・早期対応(総合的)

3. 「地域での生活を支える」医療サービスの構築

4. 「地域での生活を支える」介護サービスの構築

5. 「地域での日常生活」・家族の支援の強化

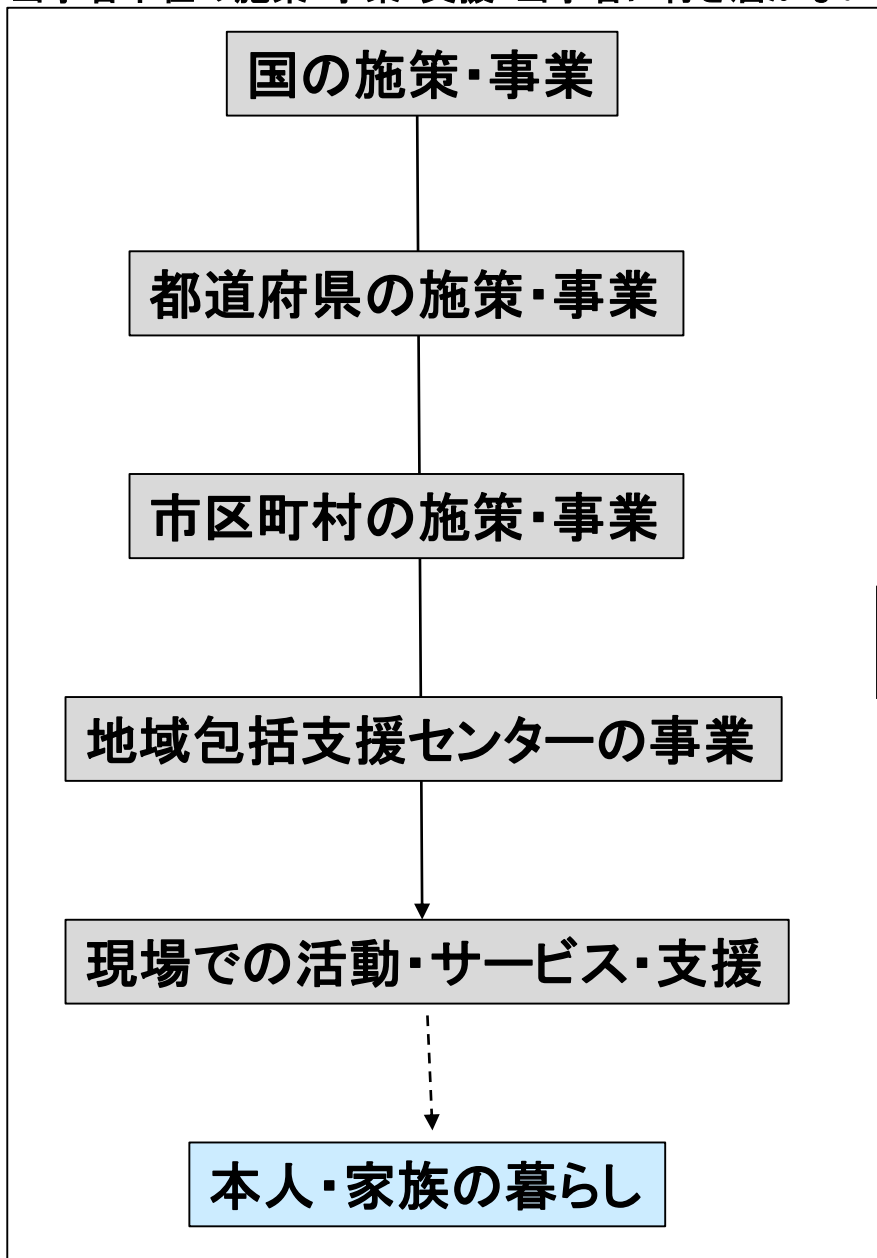
6. 若年性認知症施策の強化

7. 医療・介護サービスを担う人材の育成

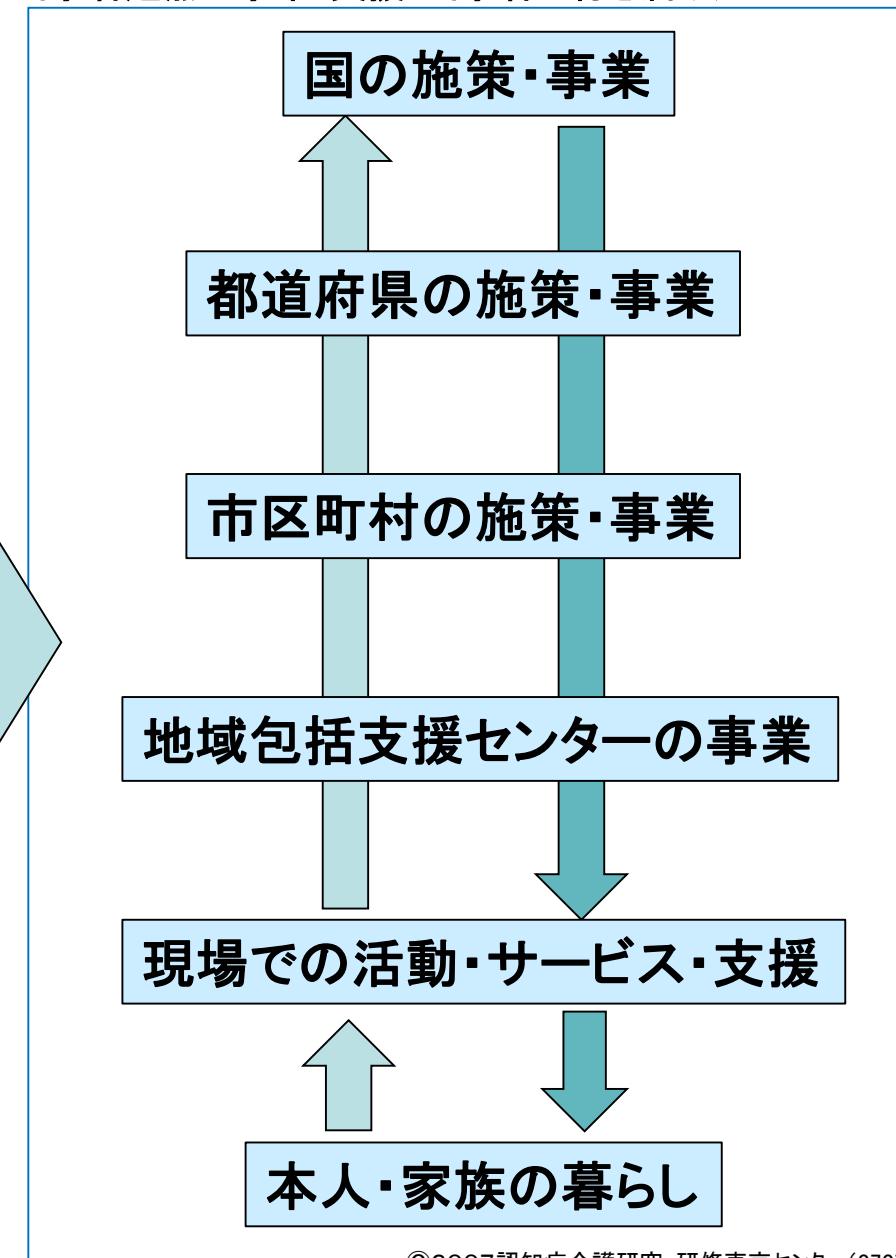
ライフサポート(生活支援)を協働で行う人材を育てる

起点は当事者、ゴールも当事者

当事者不在の施策・事業・支援: 当事者に行き届かない



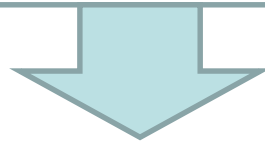
当事者起点の事業・支援: 当事者に行き届く



1) 1日目の情報を自地域の取組みに活かそう！

＊まずは、自分で
昨日の報告やグループワークの情報をもとに
整理してみよう

- ①自地域の地域支援体制を築いていくために
自分の立場として強めたい役割やポイントは
- ②自地域の取組みに活かしたい具体的なアイデアや
工夫は



グループで伝えあおう
「考え方」や情報を共有しあおう

5. 自治体における認知症地域支援体制作り最前線 (その2)

○自治体の取組み事例報告

釧路市としての地域支援体制作りの推進と
ケアパス作り

北海道釧路市介護高齢課

若狭 節子 さん

* ワークシート2-5も、ご活用ください。



6. 26年度前半の時期に自治体担当者が やるべきこと・できることは何か

全国各地の取組み事例をもとにした情報提供

★今の時期：2014年10月

今年度、そして来年度以降の
大事なターニングポイント。

- ・わがまちがこういった方向に進むのか
- ・人がどう暮らしていけるのか

＊行政担当者が、舵取り役

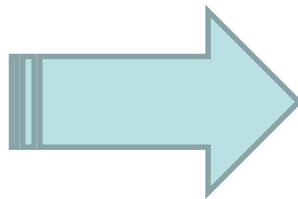
★大事な時期だからこそ、焦らずに。

国や各地の情報も参考にしつつ、
わがまちのこれからについての
考え方（ビジョン、方針、目標等）に
ついて、多様な関係者と十分に話し合い、吟味し、
合意形成を丁寧にはかっている。
今年度事業のあらゆる機会、計画作りに反映させていこう。

行政事務職



- ・認知症担当になって日が浅い...
- ・認知症や介護・医療についての（最新の）知識・情報がない...
- ・当事者や現場の実情よくわからない
- ・認知症の人にあったことがない...



- ・市町村・行政の全般的な状況、事務・管理に詳しい
- ・役所の様々な領域の経験がある
- ・分野を越えた行政関係者・地域の関係者とのネットワークをもっている
- ・専門職ではない強み：人としてのあたり前の感性

なかなか越えられないできた
医療・介護・地域の壁を越えていく結節点に

行政事務職の人の力・協働を大切に。

- 何が求められているか
- わがまちがこういった方向に進むのか

＊具体的な手がかりは
地元で暮らす当事者の声の中に・・・

当事者の声より

●できないことばかりを見ないで。できることを大事にして。

●テストや質問されると、どっと落ち込む。

●わたしという人間を、ちっともわかってもらえてない。悲しい。くやしい。口もききたくない。だからだまってしまおうんです。

●できないことばかりを見られると、立ちあがれなくなる

●病気やできないことを考えると、本人も周りも落ち込んでしまう。
日々、まだできることを大事に、もっとお互い、楽しく、充実した人生を送ろうではありませんか。

●わたしが好きなことを、できるように、助けてほしい。

●みなさん、いろいろよかれと思っていってくださいますが・・・。
気の進まないことは、とってもストレス。
残された時間は、好きなことに使いたい。

●自分でやれると、まだまだ自分はだいじょうぶって
ものすごく安心できます。

●ひとつ、ひとつ、いっしょにやってもらえると
ありがたい。
いっしょにやってもらおうと、けっこうできる！
できるとうれしい！そのあと（の時間を）調子よくすごせる。

●日々、小さいことでも、自分がやり遂げられるように助けて、
力づけて下さい。前向きになれるように。

●わたし抜きに決めないでほしい。

- 認知症の医療とか、ケアとかいうけど、
本人が何に困っているか、どうしてほしいかを
聴かないで、なんでやれるんですかね？

わたしは中小企業で働いてきましたが
お客さんの声を大事にするのはあたりまえ。
この業界(医療、介護)は、恐ろしく時代遅れ・・・。

- みなさんには本当に感謝してます。
でも・・・自己満足では・・・。

- 考えるのは難しい。でも選択肢をわかりやすく
伝えてくれれば、わたしなりに、わかります。

- これでいいか、わたしにきいて・・・。

- わたしだったらどう選ぶか、みんなで考えて。

●異常に見える言動は人としてあたり前のことをおさえつけられているから。

●自分は蚊帳の外…。
こんな扱いをされたら、だれだって怒りたくなるでしょ。

●やりたいことを自由にやらせてもらえない、
外に出ようとするのを止められる、
やりたくないことをやらされる
…毎日がストレスでいっぱい、いらだってしまう…。

●わたしたちなりの理由や意味があるんです。
症状とみなすまえに、なぜそうしたふるまいをするかよくみてください。

●認知症だけをみないで！わたしをよくみて！

●認知症患者・・・嫌な言葉・・・。

●わたしは認知症ですが、それだけで生きてるわけではありません。

●認知症といっても、病気が違う、毎日が違う、願いが違う。
一人一人がちがうということをわかってほしい。

●目の前にいるわたしが、
これまでどんな人生を送ってきたのか、
これからの時間をどのように生き、
どう旅立っていきたいと願っているか、
そのことを聴いてほしい。

●これからの一日一日を精一杯、暮らしたい。

●認知症になったことは、本当に無念。
でも落ち込んでいても始まらない。
家族のためにも、一日でも長く、自分でしっかりと
暮らしていきたい。

●診断を受けて、家族と泣き崩れました。
そして決めました。
残された一日一日、一瞬一瞬を大切に暮らそうと。

●楽しみたい！働きたい！心豊かに暮らしたい！
ささやかな願いを聴いてほしい。

認知症の人：地域の理解・支援・つながりの有無で大きく変化

理解・支援・つながりがある

安心・快がある日々を
心身のストレスを小さく
力を発揮できる場面を
(活力、自信や誇りを保てる)

A

中核症状
記憶や判断の障害等
自分らしさ

不安・不快の日々
心身のストレスが大
すすることがない日々
(活力、自信、誇り失う)

理解・支援・つながりが不足

C

中核症状
記憶や判断の障害等
自分らしさ

障害が最小

- ・症状緩和
- ・自立度維持
- ・体調安定
- ・その人らしさの維持

周囲の負担が小

B

中核症状
記憶や判断の障害等

落ちつかない・混乱
興奮・大声・乱暴
拒否・うつ的

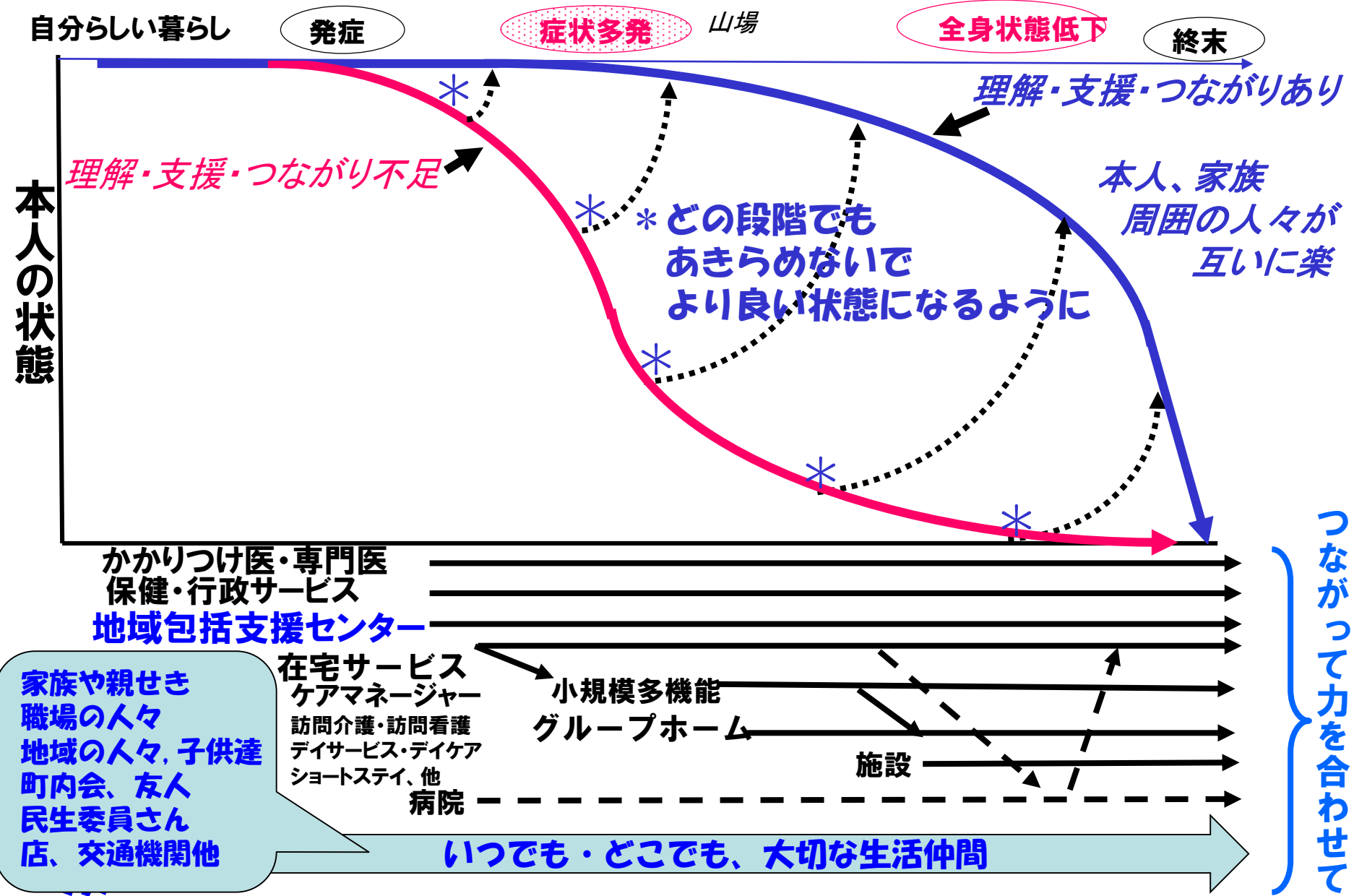
周辺症状

障害が増幅

- ・症状増悪
- ・自立度低下
- ・体調悪化
- ・その人らしさが隠れてしまう

周囲の負担が大

長い経過を辿る:あきらめないで、つながりあって、互いに、より良い日々を



* 認知症の本人自身が、

前を向いて歩いていけるように。

自らの力や暮らしを大切に、

日々をよりよく、楽しく暮らしていけるように。

- ・本人が、知識・情報不足に悩んでいる場合が多い。
- ・本人自身も、偏見・誤解が強く、状態悪化、利用拒否の要因
- ・認知症でも、本人は学習能力がある。

本人抜きに、何事もすすめない。

実態調査、計画作り、事業の企画・実施・運営・評価、会議、研修等

→すべての場面で

○担当者が、本人に会ってみる、声を聴いてきる

○本人の視点にたって考え、動く、働きかける

本人はどうか、本人に役立つか、本人に何があったらいいか

人として
素朴に

参考：団塊の世代の認知症の人が増える時代

認知症本人同士の交流サイト

3つの会@web

<http://www.3tsu.jp/>

1. つたえる :: 認知症の人の思い・意見を発信します
2. つくる : 認知症の人の「暮らしをつくる」ことを実行します。
- 3 つながる : 認知症の人がつながり、認知症の人が「一人ぼっちでないことを」実現します。

本人はもちろん、行政職、専門職(医師、ケア職員)、地域の人たちの意識・行動が大きく変わるきっかけになっています。

→ 地元で、認知症の本人が仲間と出会い、活動する機会を作る動きが各地で。

7. 自地域の課題、特徴に根差した取組みの 補強策を具体化しよう

＊まずは、自分で
報告やグループワークの情報をもとに
整理してみよう

①自地域の事業や取組み上の課題を解決していくために、
自地域に必要なだと思うこと

＊漠然としたままにせず、
より具体的に
どういう人たちが、
どういう場面・機会に、
どのようなことが必要なのか

②自地域で必要なことを補強していきために、
取組んでみたいこと、やってみみたいこと（具体的に）

③そのためにつなげたい（つながりたい）
人・組織・事業など



行政担当者・県警者ならでの立場・つながりを大事に

9. 全体での情報・意見交換 ～今後の取組みの焦点、アイデア～

**「認知症」を通じて、人として大切なことやつながりが広がり、
すべての人が暮らしやすい町に近づいていきます。**

☆これから、自分が何をしていくか。

- ・一人の人、地域の可能性に光をあてながら**
- ・あたりまえのことを大切に**
- ・一人ではなく、地域の多様な人と共に**
- ・無理をしないで。(小さな)ことから、息長**



2日間、お疲れさまでした！

今回のセミナーをひとつのきっかけにして
あなたの地元で、

めざしたい地域の姿にむけて

あなたが（小さな）アクションをおこしてください。
伝える、話しあう、できることから一緒に。

これからも

他の地域で悩みながらも前に進んでいる全国の仲間
そして東京センターとつながり続けてください。

また、お会いできるのを楽しみに！

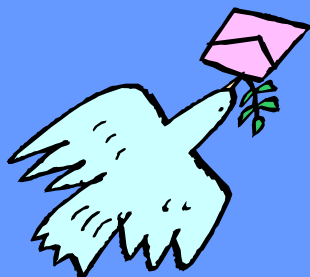
☆第3回合同セミナー：1月29日～30日です。

各自治体から、どなたかお一人でもご参加を。

CONNECTION

**“コネクション”は、認知症地域支援に関わるみなさんの
情報交換・共有の場です。**

**コネクション
とは**



認知症地域支援体制構築等推進事業、認知症総合推進事業等を実施したモデル地域の担当者、合同セミナーの参加者を中心に発足し、自主運営しているメーリングリストです。全国自治体の認知症関係部署、地域包括支援センターの方など、600人超の方が参加してざくばらんな楽しい情報交換をおこなっています。

「見守りネットワークづくり、どうしたらいい?」「うちではこんなことやってますよ」「わたしのところはこうですよ」など、コネクションに投稿すると、全国各地から、ホットな情報が寄せられます。また「今度、模擬訓練やります。近隣の方、見に来ませんか?」といったお知らせ、各地で発行している定期情報誌の提供もあります。メンバー同士の気軽な相談窓口、楽しい情報交換の場、元気がでるつながり、それが「コネクション」です。

コネクションへの参加希望は、メールでどうぞ!

メール件名を「コネクション参加希望」とし、①都道府県／市町村名、②所属部署／法人名、③お名前、④連絡先(所在地住所・電話番号)、⑤メールアドレスを、下記宛て(大阪府岸和田市福祉政策課・庄司)にお知らせください。

shoujiakiyoshi@city.kishiwada.osaka.jp